



市議会だより



角館小学校の 開校式

主な内容

- 2月定例議会 2～3 P
- 一般質問 4～12 P
- 常任委員会だより 13～14 P
- 政務調査 15 P
- 控え室風景、編集後記 16 P



2月定例市議会

平成20年度 仙北市一般・特別・企業各会計の 全予算案を可決（一部賛成多数で）成立す

一般会計当初予算は181億3700万円 20年度全会計予算純計（各会計の重複を除く）は 368億2,650万円

仙北市議会二月定例議会は、二月二十六日から三月十九日まで、二十三日間の会期で開催された。

議案上程の後に行われた一般質問には九氏が登壇した（仁政クラブ二、翠鸞会二、創成会一、政真会二、共産一、外一）。

二月定例議会への上程議案は平成二十年度一般・特別・企業各会計予算案十六件、条例の制定五、一部改正十三、平成十九年度の各会計補正予算案十二件など五十八議案。

議案の審査は所管の各常任委員会に付託され行われた。

十九日の最終本会議で、各常任委員長の審査報告、討論が行われ、採決では全議案を原案通り可決（七議案は賛成多数で）した。

続いて副市長人事案が追加提案され、投票による採決の結果、賛成多数で可決し閉会した。

平成二十年度予算 で借換債、総額 十一億四百十万円

財務省は二月、公的資金を貸し付けた地方公共団体に対して、補償金を免除した繰り上げ償還を認め、秋田県では仙北市など二十一団体を承認した。国は昨年度から三年間、財政健全化を進める自治体を支援するため、補償金免除の申請を受け付けていた。仙北市では、一九九二年五月まで

に起債した金利五%以上の公的資金四億九百六十三万円を繰り上げ償還した。平成二十年度予算では一般会計含む六会計で総額十一億六百八十五万円を繰り上げ償還し、金利の低い繰上償還に借り換える予算を組んでいる。これは財政事情の厳しい自治体が、財政健全化に向けた経営計画を提出し、財務大臣が承認した団体に認められるもの。

平成20年度仙北市会計別予算総括表

会計名	本年度予算額(千円)	前年度予算額(千円)	比較(千円)	伸び率(%)
一般会計	18,137,000	18,088,000	4,900	0.3
集中管理特別会計	4,920,300	5,029,900	△109,600	△2.2
下水道事業特別会計	1,182,700	974,700	208,000	21.3
集落排水事業特別会計	776,100	625,500	150,600	24.1
浄化槽事業特別会計	113,800	129,000	△15,200	△11.8
国民健康保険特別会計(事業勘定)	3,618,300	3,791,600	△173,300	△4.6
国民健康保険特別会計(田沢診療施設勘定)	35,900	35,500	400	1.1
国民健康保険特別会計(神代診療施設勘定)	97,900	96,600	1,300	1.3
老人保健医療特別会計	374,824	3,863,604	△3,488,780	△90.3
後期高齢者医療特別会計	313,040	0	313,040	皆増
介護保険特別会計	943,500	928,500	15,000	1.6
生保内財産区特別会計	62,800	67,300	4,500	△6.7
田沢財産区特別会計	23,200	28,500	5,300	△18.6
雲沢財産区特別会計	2,943	2,670	273	10.2
簡易水道事業会計	229,600	248,300	△18,700	7.5
病院事業会計	6,303,166	5,490,491	812,675	14.8
温泉事業会計	36,950	46,703	△9,753	20.9
水道事業会計	914,792	835,029	79,763	9.6
合計	38,086,815	40,281,897	△2,195,082	△5.4

※企業会計については、収益的支出及び資本的支出の合算額を掲載した。



東海林副市長退任に伴う副市長人事案 浦山清悦氏の選任に同意す

議員報酬改正の議員提出議案 8%引き下げを賛成多数で可決す

**新副市長に元職員
の浦山清悦氏
(六二)を選任**

東海林副市長が三月三十一日をもって退任することに伴い、浦山清悦氏(六二・仙北市田沢湖田沢字蟹沢口二三一)を副市長に選任する事の同意を求める追加議案が十九日の最終本会議に追加提案された。

無記名投票による採決の結果、賛成十七、反対五、無効一、の賛成多数で選任に同意した。



浦山清悦氏
生年月日 昭和20年11月17日生
学歴 秋田大学学芸学部卒業
(角館高校)

**議員報酬引き下げ
の議員提出議案、
意見別れ二本が**

仙北市議会議員の報酬を5%引き下げて支給する条例が三月末で切れる事から、市議会では以前からその後の対

応を行革特別委員会で協議してきた。条例の期限が迫ってきた二月定例会では会派代表者会議に席を移して対応を協議。一時5%の報酬引き下げで合意したが再び決裂。行革特別委員会でも合意となつた5%引き下げすべき側と8%引き下げとすべき側と真つ二つに分かれた。その後数回にわたつて一本化の協議が行われたが合意とならず、それぞれの議員提出議案を出す事となつた。

本会議では8%引き下げ案が先に審議され、大激論の末起立多数で可決成立した。この為5%引き下げの議案は議決不要となつた。

議会議員の報酬 新旧比較 (月額)

	旧	新	比較
議長	408,000 円	議長 375,000 円	△33,000 円
副議長	357,000 円	副議長 328,000 円	△29,000 円
議員	340,000 円	議員 312,000 円	△28,000 円

一般質問



観光施策について 横町橋、内川橋について 財政の健全化について

佐藤直樹

伝建群と歴史的景観条例について

質問 武家屋敷通りとその周辺がこのままで良いのか。観光客のイメージとしては、武家屋敷とその周辺が一体的なイメージだと思う。市には歴史的景観条例があるが、この条例について市長の考えを伺う。また、伝建群の範囲の拡大という方法もあると思うが、あわせて伺う。

市長 今後は、残すべき区域、環境風土を残すという事に力を入れていきたい。

伝建群の範囲の拡大については、そこに関わる人、住んでいる人達との協議、合意のもとに進めなければならぬ。大きなハードルがあるので、伝建群保存地区の保存計画の見直し調査委員会の結果を踏まえ、教育委員会中心に、今後も心して進めたい。

食品表示について

質問 本格的な観光シーズンが始まる。シーズン前に行政としての対応は考えているのか。

市長 観光シーズンには、重点的な巡回指導を保健所と共に市としても行っている。県、商工会、関係機

関と連携をし、その場での指導、テーマを設けての研修会の開催、広報ホームページを通しての適正化に努めていきたい。

県の東京アンテナショップについて

質問 昨年質問した際、市としても積極的に関わっていききたいとの答弁であったが、今後の対応について伺う。

市長 県内の市町村に具体的な呼びかけや説明は合わせをし、市として特産品の出品はもとより、イベントや観光PRの場として大いに活用していきたい。

横町橋、内川橋について

質問 横町橋と内川橋は、どちらも完成してから四十数年経っている。耐震調査または強度調査をし、その結果によっては対応を検討する時期に来ていると思うがどうか。

市長 平成十九年度、市の十六の橋について点検業務の委託をし、その結果が年度内に出る。こういった事をもとに、補強の必要性、緊急性

を判断しながら対応を進めていきたい。

病院の経営について

質問 経営の一本化により合理化、効率化を目指すべきではないか。これには市長の強いリーダーシップとトップダウン的な考え方が必要ではないかと思うが、市長の考えを伺う。

市長 医療改革会議等で、二つの病院のあり方を検討してきた。市の地域医療としての病院、診療所も含めたあり方について、平成二十年度中に方向性を示したいと検討している。

下水道事業について

質問 市は、平成二十七年まで整備率八十%という目標があると聞くが、同時に水洗干净を上げ、使用料金の安定した収入見込みがないと、今後の財政に大変な影響を与える事になる。対策室を作り戸別訪問するなどして、水洗干净の向上に力を入れるべきと思うが、市長の考えを伺う。

市長 全体的な生活環境の向上、改善を図る中で、市で考えられる支援、補助を示しながら皆さんの理解と協

力を頂くよう進めていきたい。

人件費について

質問 歳出全体の二十二%、構成比で一位である。今回から管理職手当を率から定額にするというが、他の市の管理職手当はどうなっているのか。また、職員の適正化について、これまでの目標と結果はどうなっているのか。

市長 部長の場合、仙北市は六万四千九百円となっており。職員数の適正化には、計画の人員数より多い減り方になっており、平成二十年四月で目標値を十四人上回るペースで進んでいる。



このままで良いのか伝建群

一般質問



農業の現状と今後の見通し、市として技術協力を!! 観光と農業について 定住対策について

大石 温基

農業の現状と今後の見通し、市として技術協力を!!

質問 国の品目横断的安定対策が、一年で急に水田経営所得対策と名称が変わり、面積要件が緩和された状態になってきている。国の政策がこのような中であって、市ではもう少し足腰の強い農業政策をしていただき、農家が安心して経営できる農業政策を行っていただきたい。現在の農家の状況を市長はどのように、考えているのか伺いたい。

また、県の方では平成二十一年に地域振興局の統合を図るということであるが、今後ますます転作が進んでくると、米作りだけの収入ではどうにもならない、大豆、ソバなどだけでなく、野菜等、いろいろな作物に手を広げていかなければならないと考える。

農協の指導もあるがしっかりと農業技術指導を行う専門家を育てていく必要があると思うが市長の考えを伺いたい。

市長 ご指摘のように国の政策として平成十九年から品目横断的安定対策ということでスタートをしたわけ

であるが国としては進めた後の反省点から名称を変更し、加入要件など緩和の方向に変わったところである。国のこのような政策を受けて進めているが、私としては農業については、稲作主体の地域農業、これを米以外も含めた、もっと強い農業にしなければいけないということでは就任以来そのような観点からお話をしてきたところである。仙北市の農家の皆さんが将来できるだけ不安を抱かず強い農家になっていけるよう支援をしていきたいと思っている。農業の指導者という質問があったがこれについては市の職員としても技術レベルなり専門知識を持つように努力をする。県の専門的な立場にある方とか、国の機関を我々が活用し、農家の皆さん方に紹介するということを進めていきたい。

観光と農業について

質問 この米どころの仙北市、その農業と、また来てくれる観光客に、仙北市に行けば美味しいご飯が食べられるというような状態にするためには、農家と観光業者と、行政もその橋渡しをしていただかないとなかなか困

難なことだと思ふ。現在仙北市にも認定農業者の連絡協議会があるが、その中の方々に動いてもらって観光業との携わりを強くしていただくことなど市としての指導があれば良いと思うが市長の考えを伺いたい。

市長 観光の中で特に食材である米については、地元で作った美味しい米を提供し、また行つて食べてみたい、取り寄せたいという形にしなければいけないと思つている。これについては、観光施設業者さんにも、仙北市の特徴、良さがあつてまた来ていただけるということ強く認識していただき、長く続く交流、観光という観点から対応していくことが不可欠であると考えている。また観光に関連して認定農業者協議会は私も存在を認識している。代表を含めて四名の方が先頭を切つて地元の農業を観光という形で首都圏で売り、自ら認定農業者協議会の立場として行つている。行政としても今後どう進めていくかという観点から職員を同行させており今後も連携を取りながら進めていきたい。

定住対策について

質問 新しく仙北市に来てもらうと同時に、今住んでいる人達に住み続けてもらうのも定住化対策の一つになると思う。冬は雪が多く、良い条件とは云えないが、職場の確保や、インフラの整備などを急がなければならぬと思うが市長の考えについて伺う。

市長 住んでいる皆さんが環境の整備された中で住みやすい、安心して生活ができる、そういうインフラ整備、こういったものは続けていかなければいけないと思つている。道路の整備についても同様である。実施に当たっては緊急度、必要度など総合的に判断しながら進めていきたい。



美味しい米の供給を

一般質問



20年度予算編成と具体的な施策について

財政の健全化法について

佐々木 章

二十年度予算の具体的な施策は

質問 これまででは厳しい財政状況と、今回の施政方針に危機的財政状況と、厳しいを通り越し危機的財政状況の中で二十年度の予算編成され市長は効率的、効果的の行財政運営を進めたいというのであるが財政にかかわる部分での施策を伺いたい。

市長 職員、議員、市民の皆さんにも財政状況の認識として、より厳しい判断で見えていただきたい、ということでは危機的状況と変えたところである。

具体的には県の影響でいえば補助金の削減等、市の事業の中では宿日直体制の見直し、前納報奨金、老人の温泉入浴事業をやめることになる。その他管理職手当の見直し等、大きな目玉としての説明はできないが、細かいことも含めて進めているということとで理解をいただきたい。

質問 人口の減少あるいは少子高齢化が進んでおり、加えて観光客が横ばい状態の中で、地域経済活性化のために創意工夫を凝らした施策、市長の具体的な考えをどう展開していくのか。

市長

三つの重点プロジェクトの推進室を設置し、その中で幾つかの発想や事業も生まれている。スローライフモニターをしたり、ふるさと会の皆さんに情報の発信やふるさとサポーター等の制度を設けて進めていきたいと思っている。

出前講座について

質問 行政懇談会 参加者が少なかつたことは参加しても市側と密接なコンタクトがとれないということが原因なのか、根本的には、行政と市と住民、市民との信頼関係がなければいろいろな懇談会を開いても共通の認識は得られないのではないかと。

市長

行政サイドから一方以上に並んでいるのに対し抵抗感があるのも確かである。地域にとつて何が課題で、どんな問題があるか、予め出していたとき、現地に指定されたときに赴いて、課題について説明をし、意見を聞き、相互理解を深めるといふ方向に向うべきではないかと考えている。

質問

今回、条例で市長、副市長、教育長の給与の問題について附則を一年延長

するということ、市民にどう説明をしていくのか。

市長

特別職の給与の件、今回さらに一年間の継続ということでは提案である。県内の市長の中で仙北市の市長が一番低い給料であり、教育長は職員の最高額とギリギリのところまでカットしている。

財政の健全化法について

質問 実質赤字比率、連結実質赤字比率は今のところクリアしていると思うが実質公債比率は二十パーセントを越す数字になっている。二十五パーセントに達することはないと思うが基準値である十八パーセントを切ることはなかなか難しい中で、第三セクターも含めた将来負担率、これらをクリアするためには足腰の強い財力を持つてなければ難しいのでは。

市長

実質公債比率、現状二十、二パーセント、平成二十二年頃がピークで二十、四パーセント。その後は下降の方向で二十七年になると思うが十八、三パーセント、現在の意識、努力を続ければ十八を切る方向にいくものと思っている。

目的税について

質問 歳入の税、あるいは交付金について、使途、目的が特定されているものもあると思う。これらの目的が十分達成されないままに一般財源化されているものもあるのではないかと。入湯税であるが、課題として乳頭温泉郷あるいは温泉を抱えている市として、この財源を使用して温泉にかかわる環境整備等やることもあるのではないかと。

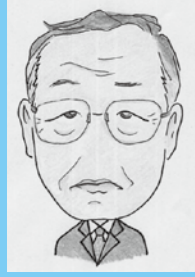
市長

入湯税は目的税であり、使途が明記されている。観光の振興、消防施設の整備、その他の項目が対象にしても消防にしてもそれを上回る事業投資をしており、目的税である入湯税も一般財源としてその中に含めて、その中で必要な事業を行っていくと理解を頂きたい。



仙北市の将来は…

一般質問



農林業の振興策は 田沢湖病院をどうする

浦山敏雄

農業農村を活性化するための戦略は

質問 宿泊での農業体験、空き家や廃校を使った

滞在型の農業体験は、地域農業の活性化につながる。

農林水産関連の集落には祭り、伝統文化の継続、景観の保全等の復活対策が必要であると考えられるか。十九年度の農政は、認定農業者（四ヘクタール以上）や集落営農組織（二十ヘクタール以上）を応援する施策であったが、今二十年度はその条件がなくなり、生産者は誰でも応援することになったと考えていいのか。

市長 面積にこだわらず、自立してやっていく農家には制度支援がある、国と一緒に支援していく。

小さい規模の農業ではやっていけない部分について集落営農での取り組みは意味のあることであり今後も市として推奨していく。心配なのは集落営農からの脱退の懸念である。

森林・林業の産業振興は出来ないか

質問 近年、森林と林業をめぐ

る状況は大きく変化し、地球温暖化防止や生態系保全といった環境面での森林の役割に期待が高まってきている。

木材市況も好転の兆しがあると言われてきている。公共事業が減少の中、林業振興を雇用創出産業と位置付け出来ないか。地方自治体と企業が手を結び森林整備と再生を図る事業が全国で広がっている。市としてこれらの施策についての方策がないのかお尋ねしたい。

市長 仙北市の森林は杉の人工林が大半であるが

かなりある。伐期を迎えた木もたくさんあるので林業活性化と木材産業の振興を図る必要がある。木材チップを利用したバイオマス事業化へ向けての調査に取り組んでいる。昨年県主導の「企業立地促進法」に基づく木材関連の産業集積をめざす地域産業活性化協議会に参加した。その一員として民間と行政との情報交換をしながら林業の活性化を図っていく。なお、枝打ち、間伐など旧西木村で行った森林・林間体験事業は今後も続

けていく。

水源の里づくり構想はどうか

質問 水が豊富であるが、高

齢化の進む田沢地区に「水源の里づくり」事業を導入できないか。住宅建設や改修、都市住民との交流、特産物の開発など活性化策として条例化できないか伺います。

交流センター（旧田沢小学校）はかなり活用が増えてきているが、活性化センター（旧田沢中学校）、田沢地区コミュニティセンターは利用されていない。この活用方法は、

市長 豊富な水の恵みを受

けた自生わさび、蛍、ハリザッコ等いい自然環境が残っている田沢地区は、活性化、旧学校等遊休施設の有効活用とあわせながら自然体験エリアと位置付けるのも一つの方策と考える。

旧学校等遊休施設はこれからもずっと管理費がかかる。不要なもの解体もありうるが、かかる経費以上の効果がある活用方法を考えてゆきたい。

二十年度から国が三省合同で行う子供農山漁村プロジェクトの事業の中で宿泊体験施設として活用できないか検討

したい。

観光客誘致のためにも医師の確保を

質問 医師確保対策室を強

化し、進めている病院経営改革はどうなっているのか。角館病院の赤字対策、改築計画、田沢湖病院の医師確保対策などの問題に対する基本的な姿勢を伺う。

市長 田沢湖病院の医師数

の現状は十七年三月までは五人、十七年四月から十八年二月まで四人、十八年三月から十九年六月まで三人、その後一人減って一人入って十九年九月より三人である。これは秋田大学の医局への長年の派遣要請やホームページ等も含めた医師募集の結果であり、今回の医師はその募集に応募頂いたものである。



田沢地区コミュニティセンターの活用は

一般質問



農山村の活性化について 環境問題について

藤原 万正

農山村の活性化について

質問 農業は、産業的な側面

のほかに食糧安全保障や多面的な機能など計り知れない側面を持っている。しかし今、日本農業、農村は脆弱な経営体質と合わせて地域の活力が失われつつあり、この対策に真正面から取り組まなければならない時である。集落営農の組織化の進捗状況と課題と対策、小規模農家の不安解消対策、耕作放棄地の減少対策、地域社会で共同生活を送ることが難しい集落対策について伺う。

市長

国の基本政策が短気的な政策になると言う不安の声が聞かれる。農業経営の安定を図るためにも、中長期的な展望に立った政策が必要で国、県に対してそのような観点から強く要望して行く。

集落営農組織は十四、現在設立に向けて話し合いをしている集落が二、三ある。小規模農家の不安解消対策については、国の基本的な支援策に対する加入要件が緩和されたことによって、小規模農家であっても、高齢の農家であっても従来と違って認定農業者になり得る環境が整った。

新しい制度による加入申込みは、四月から六月だと聞いています。耕作放棄地の問題は、農業委員会において遊休農地解消普及活動事業を実施している。将来的にはバイオマス燃料用の作物の作付が有効と

組織化が急がれる地域農業



高齢者が半数を占める集落については市の七九集落中、二つの集落が上がっているが住民の方々が何を望んでいるのかを本年度中に調査し、現実を把握したい。

環境問題について

質問 近年のさまざまな地球の異変は、私達が引き起こした温暖化が原因である。排出される二酸化炭素の約半分が家庭生活に関係している。

身近に取り組める省エネ対策を考えているのか、また県と連携し環境リーダーの育成するべきだ。

市長

意識啓蒙、推進は必要な項目として取り上げる。市には地球温暖化防止活動推進員制度がある。リーダーの育成には取り組む。

自殺予防対策について

質問 平成十八年自殺対策基本法が施行され、自殺対策を社会的な取り組みとして明記された。

市の対策と現在までの進捗状況を伺う。

市長

平成十九年から三年間自殺予防のモデル地域として指定を受けている。

これまで事業は、アンケート調査、心の健康づくり教室の開催、生きがい支援づくり事業、さらには職員を中心としたハイリスクの方への対応方法、ふれあいサポーターの養成講習会等の事業を行って来たが二十年度も同様に進めていく。悩みごと、相談ごとが気安く行える組織、社会を作りあげることが大事だと思う。

LD、ADHDなど軽度発達障害の児童生徒に対する支援体制の強化について

質問 市では早期発見のための措置をどのように講じているのか、また新年度から学校生活サポート員の県予算が付かないようだが、その対応はどうか。

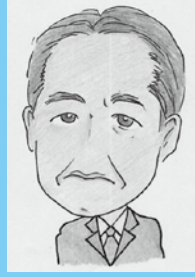
市長

学校で把握している児童、生徒数は四十四名、幼稚園保育園、その他で把握された数は二十八名。五歳児健診の予定は今のところ考えていない。

教員

学校生活サポート員は、昨年から特別教育支援員と名前が変わったが、十一人の配置の予算はいたっていない。

一般質問



仙北市農業の活性化と地域農家が意欲を持てる施策は

職員の人員数は適正か、また適材適所の配置となっているか

黒澤 龍己

地産地消の積極的推進について

質問 仙北市の農産物の柱は米である。米の地産地消を進め、消費拡大に結びつけることによって、農業の活性化につながり所得の向上になると思う。

市立病院、学校給食など、仙北市のさまざまな施設で安全で安心な地元産の米を使用すべきと思うが市長の考えを伺う。

市長 仙北市としても極力市内の施設では、市内の作物、製品を使うように心掛けてきたが、米に関しては、JAを通して購入した場合、必ずしも地元産の米が来ているわけではない。流通の仕組みなど、改善に取り組む必要もあると思う。

今後、市の施設を中心に市内の生産物を主体的に使用する方向へ進めていきたいと思っている。

観光産業と農家の連携は

質問 仙北市の観光振興計画を見ると、基本理念は、観光に関連する産業として、基幹産業である農林業は、

商工業と密接に結びつく重要な産業として位置づけられている。また振興を図るために



地産地消で頑張っている立町ポケットパーク

は観光と農林業、商工業との連携により市民全体が豊かになり、観光で潤うまちづくりを進める。と書いてある。しかし実現するにはそう簡単なことではないと思う。

観光に訪れるお客さんに、安全で安心な地元の農産物を美味しく食べてもらう、そして買って頂く。安全、安心な農産物に取り組んでいる担い手農家、営農組織がたくさんいる。観光と農業を結びつけるきっかけを行政が作ってや

るべきと思うが市長の考えを伺う。

市長 市の施設と同時に市内の宿泊施設や加工施設、加工業者が使っている原料、材料としての農産物、こういった物についても地産地消の促進、呼びかけをし消費者側の意識を高めていきたい。

生産者の方からも色々な提案をもらい、地産地消のチャンスをつくっていききたい。

行政の役割として、きっかけに深く関わられるような調整役を務めていきたいと思っている。

職員の人員数は適正か、適材適所の配置となっているか

質問 合併して、分庁舎方式でスタートして三年

になるうとしている。

広い仙北市、そして多様な産業が多い仙北市では、様々な事故、災害、事件等が想定され

る。観光客はもちろん市民の安全、安心を確保するためにも、各課、各地域センターに適材適所で適正人員の配置が必要と思うが、市長の考えを伺う。

市長 年度が変わるたび、また機会のある度に適材適所という観点から配置換えをしてきている。今後も定員の業務が円滑に推進できるような人員配置を進めていきたいと思っている。

質問 数ある課の中で業務量や内容は当然異なると思うが、市長部局の残業についてどのように指示しているのか伺う。

市長 残業については、実際かなりの時間がある。

残業をせずにこなせる体制が最も望ましいが、申告相談の時期、国保、観光、イベントなど、どうしても必要な時期がある。十九年度までは三パーセント、二十年度は二パーセント以内に抑えるように各課に指示をしている。

一般質問



企業誘致で雇用の創出を

財政改善にもう一段の踏み込みを

田口 喜義

質問

皆さんご承知の通り地域経済は瀕死の状況である。明るい方向に進むには雇用の創出をしなければならぬ。難しい課題ではあるが企業誘致を手を緩めず進めてもらいたい。

市長

企業誘致は精力的に取り組んでいる。県の大規模工業団地の誘致候補地では一位になれなかったが駄目だということではない。二番目の評価を頂いたので引き続き誘致に大いに取り組んでいく。

種苗交換会を開催すべし

質問

仙北市の産業に活力を与える為、種苗交換会を行う考えはないか。

市長

合併後間もないので、いまだ踏み込めていない。しかし、前向きに検討していきたい。

質問

観光資源やブランド情報の、農産物データベースの開設時期はいつか。アンテナショップの担当部署はどこか、また主な販売品目は何か。

市長

アンテナショップは行政の担当は農政部の商工課である。農業の生産者の方たちが作ったものを首都

圏で売るのが一つの大きな目標である。重点プロジェクトの推進室も産業連携の形で取り組む。

質問

近年宿泊者数が高原の保養所などは二十の施設が現在四施設と激減した。田沢湖ハイツ等の空き施設を市が他に斡旋できないか。また、何らかの形で国際観光に利用できないか。

市長

外国人宿泊客数では東南アジアが一番多いし着実に伸びている。言葉や接遇の問題、受け入れ態勢の整備をし、力を入れていきたい。施設の斡旋については今後検討したい。いずれにしても職員・市民からのアイデアを頂きながら進める。

財政改善策は本庁舎建設時期は

質問

市政方針では分庁舎を本庁舎整備に方向付けをし、行政改革大綱に沿って行政評価制度を活用しコンパクトで効率的な市役所を実現し財政危機を脱却すると説明があったが、この目標時期はいつか。また、類似団体の職員数は人口千人に九、四七人だが、仮に十人としても当市に当てはめると三百二十人

である。適正化計画に照らすと職員数は五百七十九人が今期退職数十五人で五百六十五人となり目標を上回っているというが、今後の調整する職員数とその時期について伺う。給与の格差是正はどうなっているか。

市長

本庁舎については、十九年度予算調査を行った。二十年度は規模・機能・場所・建設年度等を絞って示したい。

現在の起債残高は二百七十四億円だが、これが膨れないようプライマリーバランスの黒字を保ちながら全体的な市の事業計画、予算編成を行った。

給与格差は合併前調整仕切れなかった部分があるかと思うが、逐次調整してきており、現在職員の処遇については職務に合った給与体系として一本化して進めている。

やる気は全職員一丸で

質問

市長として職員にやる気をもたせるため、人事、仕方、仕組みをつくることと思うがメッセージをどのような方法で職員に周知徹底しているか伺いたい。

市長

問題が生じたり、課題があるごと部長級メン

バーで政策調整会議を月一回行っている。

部長を通じ基本的な考え方を各課、職員につたえてもらう。その他、年に数回、課長以上の管理職の全体会議を設け伝える機会をつくっている。その会議の内容は全職員に伝わる仕組みになっている。当然御用始めにあたって三庁舎ならびに職員の多い角館総合病院で年頭の訓示をおこなっている。質問の趣旨は職員に考えが伝わっていないとのご心配と受け止め、状況把握に努め情報を全職員共通の認識を持って受け止められるよう努力する。



高原の空き施設の活用を

一般質問



統合角館小学校開校について 神代小学校建築について

小田嶋 忠

学校構築の基本的な考え方について

質問 学校統合で一番大事なことは、校舎という入れ物にどんな魂を吹き込むかだと思ふ。統合の本当の仕事はこれから始まる。

教育委員会としても言葉先行でなく真剣に取り組まなければならぬ。

三校は特色ある経営方針、教育目標等を揚げて学校づくりしてきた。統合小学校はそれらを踏まえた新たな学校づくりを目指していると思うが、方針や目標を具体的にどう考えているのか。

教員 角館地区として、文教の地の歴史を引き継ぎ、教育文化を大切に、この地域としての学校の息吹を継続して進めたいと考えている。

学校構築に向けての体制作りについて

質問 統合初年度は、教育の指導体制や環境整備、地域、保護者との連携、また校外の関係機関との体制など課題が山積みしている。これらの課題に的確に対応できる教職員の確保、また教育委員会としての指導体制が大事と考えるが。

教員 角館小学校開校準備委員会を組織し協議を重ね、学校の運営、経営について基本的な準備を進めてきた。人事ではそれぞれのセクションの職員を三校からピックアップしながら教育事務所へお願いしている。

開校に当たっての課題について

質問 通学の問題を始めとして課題があったと思われるが他には問題がなかったのか。

市長 保護者の意向、各校のこれまでの経緯経過、スクールバスの配置、三校それぞれ規模が違うため、子どもたちの融合をどう進めるかが課題であった。

備品購入について

質問 緊急必要な備品等のリストアップに当たって、学校関係者の意向を十分聴取したのか。

教員 開校準備委員会の中で確認し、机やイスを購入し、他の備品については、古い備品をやり繰りし、新しい活動に資したい。

「心を育てる」教育について

質問 市の教育方針に示された目標のひとつに「豊かな心」があるが、現在いじめや不登校、犯罪の低年齢化など、人間の心の問題をめぐる教育のあり方が問われている。今後の取り組みと考える方は。

教員 教育三法の中でも、道徳教育、特に心の教育の問題については大きなウェイトを占めている。道徳の時間は核になるが、学校行事等の活動の中で統合的な学習、体験を通して心を豊かにしていきたい。

神代小学校改築について

質問 敷地が三角形で使い勝手が悪いとは思わなかったのか。

天井の高さが統合角館小学校が三メートル、神代小学校は二メートル八十センチとなっているが、この違いの理由は何か。

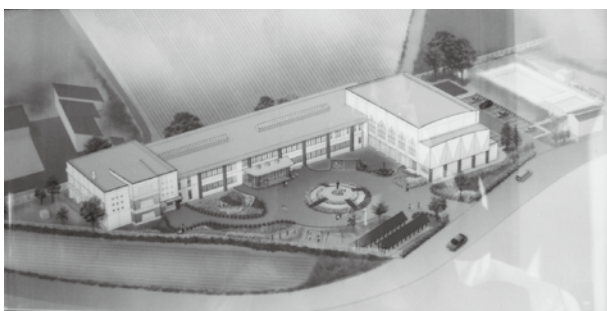
また児童生徒数が年々減少して中で、隣接地区との学校統合を想定していなかったのか。この機会に学区の見直しを検討すべきと思うが。

教員 天井の高さは、建築基準法の規制の緩和、暖房

の効率化、教室内環境を考慮して決めた。敷地については検討委員会の選択で現在地に決まったものである。

隣接地域との統合については神代地区は仙北市の中で児童数の減少が一番少ない地域であり、統合していくという考えは持っていない。

学区の見直しについては、今の学区は旧町村で選択してきたものであり、再編すると意味の編成は、今後検討しなければならぬと思っている。



神代小学校完成予想図

一般質問



市民サービス向上と機構改革について

高齢者支援と仙北市の対応 後期高齢者医療制度について

高久 昭二

市民サービス向上と機構改革について

質問 仙北市が誕生して二年半になるが、結果的に財政が厳しく、さらに長引く不況、農家の米価下落等により市民生活は一層厳しさを増している。

市長 合併後市長として仙北市を運営してきたが、現時点で振り返り計画通りの効果が発揮されているのか、具体的に進展しているのかをどのように評価しているのか伺いたい。

市長 合併せずに単独町村であれば財政状況がどうであったかということからの議論が必要だ。

合併した結果、現在の仙北市の財政が厳しい状態であるということは一概に言えないと思うし、決してそれが原因だとは考えていない。

合併効果については、今それに取り組んでおり、これから出てくる要素が多い。

例えば、組織のスリム化、職員の人員適正化に沿った人員削減に努めているのもその一つであると思っている。

質問 今後財政悪化が懸念され、限られた歳入の中で市政を運営していくには効率的な行政機構が望まれる。

本庁舎建設や位置等について二十年度中に一定の結論を出したいとしているが、今すぐにも見直しに着手すべきではないか。

私は東小学校を仙北市の仮本庁舎とし効率的な行政運営をすべきと考えるがどうか。

市長 東小学校も含めて全市の中で本庁舎としてあるべき位置、機能、規模等を踏まえて後に悔いを残さないように決定していきたい。

質問 角館武家屋敷伝建群位置に角館庁舎がある。今後、国の新規事業等に手を挙げ「火除け」復元を目指すには庁舎、旧図書館を解体する方向で検討着手すべきではないか。

市長 現在ある庁舎を解体して「火除け」を復元することは慎重に検討しなければならぬ。

私としては即これを実施するということには現在の仙北市の中では踏み切れないと思っている。

高齢者支援と仙北市の対応

質問 高齢者の入浴無料券が廃止になるが、高齢者の方々はこれに失望を感じ

ている。

温泉施設で人との交流を図り、健康増進につながるこの事業をさらに二十年度も継続できないか、また、同事業は高齢者の健康増進にあまり役立たず、これに変わる事業があるとすれば考えを聞きたい。

市長 入浴券を受け取り実際に利用された方は対象者全体の四分の一程度である。

これに変わるものとして他の老人施設に財源を回したほうがより効果的な施策が出来るということから二年前の合併時に決定している。

質問 貧困と格差社会の中で、失業、倒産、病気で苦しむ方々も少なからずいる。

各地域センターに、市職員ノウハウを活かした、暮らしの総合相談窓口の設置を検討できないか。

市長 二十年度の機構一部改革で統合と整理を行っていく。

市民サービスの中で窓口対応には不便を来たさないような配慮はしていく。

後期高齢者医療制度について

質問 同制度を理解している高齢者はまだまだ少ない。知った方々は年金から天引きされることに、不安と怒りの声が広がっている。

七十五歳以上の高齢者の方々は、年金だけが唯一の収入源であり命の糧である。

全国的に同制度の撤回を求める声広がっている中で、市長はどのように評価しているのか、反対、中止も視野に検討するよう関係機関に働きかける考えはないのか伺う。

市長 仙北市としてはこの制度の提示を受け、議会にも諮り、仙北市議会としてもこの制度に加入する決定の中で進めてきた。したがって撤回、脱退の予定はない。



「火除け」復元はいつ

総務 常任委員会

当委員会に付託された案件は、議案二十一件、継続審査中の陳情二件、計二十三件である。

仙北市西長野交流センター条例制定について

問 公民館的要素としての活用だけでなく、農業体験の宿泊施設等、観光的面を含めて検討しなかったのか。

答 「子ども農山漁村交流プロジェクト」がスタートする。その農林水産省補助事業のメニューの中に廃校舎を宿泊施設に転用する事もある。この事も視野に入れさらに検討したい。

仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について

問 伝建群保存基金への積み立ての原資として、市の一般財源を充てる事だが今後の考え方として駐車場の収入を充てる方向に行かなければ、市の財政が非常に厳しく先細りして行く中で、

基金の積み増しが大変と思われるが。

答 平成十九年度補正予算には五百万円計上しているが、平成二十年度当初予算には計上していない。今後、平成二十年度の財政状況を勘案しながらできる限り積み増ししたいと思っ

平成二十年度一般会計予算

問 入湯税の使い道について、排湯処理等の排湯路などの整備や、観光施設の整備などの関連する事業に振り向けたらどうか。

答 入湯税は目的税と言いつながら、財政で使用する場合一般財源扱いされる。環境整備や消防に使うことは良いとなっている。温泉水を排水するには、事業者が二つの法律を守って良好な状態にして排水することが基本。排湯路が必要で市がお手伝いする部分があるとするれば、旧田沢湖町で事業を実施した経緯があるので、現地調査して対応しなければならぬと思う。入湯税にこだわらずやらなければならぬ。

(歳入)

【企画費】

問 地域審議会で答申されたものがどういう形で今後活かされるのか、基本的な考えは。

答 第一期の委員はこの答申をもって終了したが、今回の答申について意見交換し答申書を整理、吟味し、施策の中に活かしたいと思っ

重点プロジェクトをや

問 重点プロジェクトをやっていく上で、市民にはどんなメリットがあるのかお知らせし、一緒になってやっていくべきと思うが。

答 市民への周知の仕方、プロジェクト内容についてわかり安く周知するように考えていきたい。



幅広い活用が望まれる西長野交流センター

(交通制作費)

問 内陸線について、これからの生かされる考え方は。

答 存続の考え方については、事務レベルで発言できる部分を越えていると感じている。昨年七月から内陸線研究会を県が主導で八回行っている。メリット、デメリットなど、色々なケースで試算したりしている。現段階でどういう方向になっていくかは出せない段階でいる。

採決の結果

議案二十一件については可とし、陳情については一件を採択、一件を継続審査とした。

教育民生 常任委員会

案件は本会議において付託された議案十八件である。

仙北市後期高齢者医療に関する条例制定について

問 減免できる要件はどのような場合か。制度が対象者に十分説明されているのか。

答 基本的には国保と同じである。説明はナビ、広報の掲載、老人クラブ等へのPR、対象者にダイレクトメールも発送している。

二十年年度仙北市一般会計 予算

問 入浴券を廃止する代わりに友好な手だてを取ると以前に答弁しているが、今回の予算に盛り込まれているのか。

答 いろいろメニューを検討したが今回は出来なかった。二十一年度に向け、新たな検討をしていきたい。

(衛生費)

問 「だしの湯」の経営状況と、指定管理者の委託料千二百万は妥当な金額か。

答 三月までの見込みで単年度は若干の赤字になりそうである。委託料については、昨年度を基準にしている。前年度まで職員がかかわっていたので、人件費等で削減になっている。

大腸ガン予防事業の内訳

答 大腸ガン内視鏡検査による市の持ち出し分は一部で

ある。国から研究費として出ることになっている。担当医師が四月末に来て計画を立て、その後動き出す。

(小野崎家、公民館費)

問 東地区公民館の管理体制はどう考えているのか。

答 現在、公民館には二名の職員がいる。小野崎家は人事異動か平福記念館で管理するか検討していきたい。東地区公民館は勤労青年ホームの職員一人を含め検討していきたい。

(学校給食費)

問 給食費の口座振替により、他の市町村では滞納が増える傾向にあるようだが、その方式を取り入れた理由は。

答 滞納が増える傾向にあるのは承知しているが、集金人方式は前から引き受ける人がいないなどの問題があった。今後も滞納が増えないよう努力していく。

二十年度仙北市病院事業会計予算

問 総務省から医療改革の見直しが出されているが、田沢湖病院のベッド数六十床

中、四十床の稼働率であれば、七十%を割ってしまう。医師が三名になったのでこれをクリアできないか。

答 総務省の改革プランではベッドの稼働率が七十%を恒常的の切る病院が三年以内に経営の効率化を図り、五年以内に経営形態の見直しを図ることになっている。新しいドクターの配置が決まったので四十二床以上は確実にやれると思っ



角館東地区公民館となった旧角館東小学校

産業建設 常任委員会

本会議から当委員会に付託された案件は、議案二十三件、陳情二件、意見書の審査二件の合計二十七件である。

仙北市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に係る固定資産税の課税免除に関する条例制定について

問 この条例の簡潔な説明と、市として、企業進出等、期待出来るものはあるのか。

答 企業進出の優遇措置として、交付税の参入、減価償却の特例、保健の適用、農地転用手続きの迅速化等がある。進出の可能性に期待しているのは、バイオマス関係、断熱材関係である。

(農林水産業費)

問 農業所得向上のための冬季間の振興対策の現状は。

答 旧田沢湖、西木地区では、寒じめハウレンソウ、たら

培等の経緯がある。最近では菌床シイタケが好調である。

畜産関係では西木地区で飼育頭数が増え、後継者も育ってきている。

二十年度は夢プラン補助事業を活用して玄米パン製造希望者もあり、農家の意向は多様化してきている。

今後も積極的に取り組む意欲のある農業者の好みにあつた施策を実施していきたい。

十九年度仙北市一般会計補正予算(土木費)

問 地方道路整備臨時交付金事業の組替えの経緯は。

答 この事業計画である田沢湖橋耐震補強工事はJRとの事前協議で、仙北市の事業となつていたが、JR秋田支店から近接工事であり、JRの事業で進めることになった。

事業は二十一年度出なければ実施できないとの事で、検討した結果、同じ枠の中にある事業で栃木六本杉線の事業費に組替えるものである。

委員会からの意見(抜粋) 工業団地の造成について

仙北市は今、農林業の低迷や相次ぐ倒産で市民生活は困窮している。企業誘致は緊急の課題であり、工業団地の造成を急ぎ、企業の進出に備えるべきである。

古城山の賃借料について

賃借料についての契約内容と経緯の検証、整備計画の明確な方針を確立すべきである。

田沢湖高原の観光について

仙北市の活性化を考えた場合、スキー場閉鎖が続く高原地区の冬季観光のあり方について着目すべきと考える。活性化計画に向けた財源について配慮すべきだ。



JRの事業になった田沢湖橋耐震補強工事

日程 平成二十年一月二十一日
から一月二十四日まで

研修先 四国

徳島県上勝町
愛媛県東温市

政務調査 各会派で先進各地へ

政真会・神戸市近江八幡市

国土交通省へ 地域の問題点を要望

仁政クラブ・徳島県上勝町

木の葉で 二億五千万円

日程 平成二十年一月十五日
から十七日

研修先 衆議員会館・国交省

南天、笹、松葉、红柿葉、

青もみじなど、料亭の料理を
引きたてる「つまもの」の葉つ
ばを販売して年商二億五千万
円にもなるという四国徳島県
上勝町が私達の視察先だ。

上勝町は徳島市から南西
四十キロ、四国山脈の南東に
位置する中山間地域。平坦部
はごくわずかで、山腹斜面の
階段状の耕地がほとんどとい
う地域である。標高百メート
ルから七百メートルの間に大
小五十五の集落が点在し、人
口二千七十七、そのうち
六十五歳以上の人口が
九百八十五人という、二人に

一人が高齢者だ。

担い手は高齢者

この「つまもの」事業の仕
掛人元農協指導員で現在第三
セクター「働いろどり」社長
の横石さんは「このいろどり
事業は商品としても嵩ばらな
いし、軽しい女性やお年寄り
の仕事にぴったりだと思っ
たと話した。

事実、説明の映像に出てく
る皆さんは、八十歳を越した
と思しき女性の方達で、中
には杖をつき足を少し引きずり
かげんの方も「こうして働い
ていると健康に良い。」と青

もみじの葉を取りながら話
していた。

上勝町でも以前は養護老人
ホーム一施設があったが、現
在は入所者が少なくなり閉鎖
し、二名の方は隣の施設に
お願いしているそうだ。

つまもの事業が医療費削減

上勝町の一人当たりの年間
医療費は約二十六万円。徳島
県で最も多い村は四十六万
円。

上勝町の人口が二千人なの
で町全体で四億円の医療費の
節約になっているという。
地域の実情に合致した特産

議員会館、国交省を訪れ、
国道四十六号線バイパス早期
完成、一〇五号線整備促進を
緊急整備が必要と事情説明
し、御法川、笹川堯、井上義
久代議士冬柴大臣秘書、宮田
道路局長に要望書を渡す。宮
田局長は当地域を知っており
併せて松木内川河川の早期改
修を要望しました。

近江八幡市重伝建保存地
区・近江商人の町並みを視察、
八幡商人の自立と儉約、不屈
の精神に支えられた商法姿勢
により、八幡を本店として、
行商地に出店を設けるなど、
特色ある商業形態を生んだ地

域である。八幡山を背景に、
全体的に質の高い町屋が良く
保存されている。見越の末、
格子戸が印象的である。
神戸市北野町山本通り、重
伝建保存地区、港町は、異人
館をはじめとする洋風建築物
や和風住宅など数多くの歴史
遺産が良く残っている。地域
住民の保存活動は「北野、山
本地区をまもり、そだてる会」
を発足、グリーン作戦、ノー
スモーキングゾーン（拡大を
図る）の設定、迷惑看板・自
動販売機等をなくす運動を展
開し、パトロールを実施して
いるがなかなか思うようにい

かないようである。観光地化
による問題は、ゴミ投げ捨て、
非公開への入り込み、不法場
所への看板、土産屋の露出等
であり、同じ悩みを抱えてい
る。

神戸も昭和五十二年NHK
連続ドラマ「風見鶏」放映に
よる異人館ブームが起ころ
観光客が増えている。

品の開発は農家の経済はもと
より町全体をも変えることに
なる。



議長の一言



佐藤 峯夫

一九六七年初出馬の時、中曾根康弘先生から次の言葉を贈られた。

- 一、大局的立場に立て
- 一、いたずらに政党（党派）に流されるな
- 一、損得で動くな

そして、右三箇条を守れる人こそ選挙民から指示を受けるだろう……と。

現在でも私共議員に求めて止まない教えであり教訓でもある。

まして自らの報酬などは、各党派合意の下に尊重されるのが慣例である。

合意を求めずして審議された本議会を市民はどう受け止め評価するのだろうか。

（二〇〇八・三・十九記）

請願・陳情 ・意見書

採択されたもの

- ・秋田内陸縦貫鉄道存続に関する陳情書
- ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める陳情

継続審査となったもの

- ・地籍調査の修正法について
- ・住宅地内の前川水路一部改修の陳情（更に調査が必要な為）

意見書

- ・一級河川の権限委譲に関する意見書
- ・道路特定財源の確保に関する意見書
- ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める意見書

各関係機関に提出されました。

控室風景

意欲

生活関連商品の値上げが相次いでいる。

大手企業はそっくり価格転嫁をするが、値上げを言い出そうものなら即、契約打ち切りになり、自らで吸収するしかない中小企業、そして農業だ。

今回、一般質問者の半数が農業問題をとり上げた。その中で若手議員の現状を訴える声に胸を打たれる。

「米一俵生産するに二万円かかる。これでは再生産出来ない。意欲を持つる施策を急げ」と詰めよる。

農業総生産額七十億円のうち、米は四十億、畜産十五億のうち一養鶏業者が十億であり、しかも大量の雇用も生む。

農業の発想の転換が、今後の決め手であることは疑う余地はない。

市長の答弁は慎重であったが、今年には市独自の安定策のスタートの年とならなければならない。

傍聴席

田村貞良（生保内）

戦後の復興に頑張ってきた市民の功績にもっと手厚い福祉の施策が講じられないものかと考えさせられた。

全ての市民に身近な生命、健康を守るための医療問題は緊急の課題である。

合併しない方がよかったと言われる事のないよう全市民力を合わせて生活向上のために力を尽くさなければならぬと思いつつ議場を後にした。

編集後記

「読みたくなる記事を書くということは大変です。」
「議会だより」ですから「その通り、事実を皆様に伝えるのが仕事」ですが、言つのは易し行つは難し、というのがピツタシカンカン。

表現の仕方を子供達にも分かる様に書かなければなりません。

今の社会は当たり前前事が、当たり前でない事が多すぎます。

何も無理をしなくても良いと思います。
当たり前が良いのです。

「議会だより」の編集の基本的な考え方はそういう事です。